



「虹の森」通信

3月号 第101号

発行日 : 2025年2月25日

発行 : 虹技株式会社

安全環境管理部 環境管理G

姫路市大津区勘兵衛町4丁目1

☎ 079-236-3257

寒いねえ 昨年は、暖冬で雪がちっとも降りませんでした。今年は一転して日本海側でも大雪で大変なようです。冬らしいとは言え、雪国は大変だ。

タイトルバックは前号に続き、猛禽類のチョウゲンボウです。漢字では「長元坊」と変わった名前ですが、語源については分からないようです。ハヤブサの仲間として猛禽類としては小さい方ですが、凛としたなかなかの美形でしょ？ その特徴はホバリングした後、急降下して獲物を捕らえるスタイルで、日本では冬鳥として全国各地で見ることができます。前号で紹介したノスリとは違って、鷹狩に使われることもあるそうです。



こちらはベレー帽に蝶ネクタイがダンディなコガラです。名前のお尻にカラがつくのはシジュウカラの類型で、元々は雀をカラと呼ぶところからきています。そのカラ類はまさに小鳥と呼ぶにふさわしい小ささなので、バードウォッチャーたちのアイドル的存在です。雄雌とも同じ色柄で、区別が付きにくいので、それからすると虹の森のバードハウスで子育てをしてくれているのは、てっきりシジュウカラかヤマガラだと思ってましたが、もしかしたらこのコガラさんかもしれませんね。全国に分布する留鳥で決して珍しくはないのですが、なにしろすばっしっこいので目で捉えるのはなかなか難しいですね。



こちらは、雪の重みに耐えるノグルミの実です。名前にクルミとついていますが、どう見てもクルミの実には思えずハリネズミのようにトゲトゲで、実が成り熟すと自然に落ちます。また食用にもならず触ると痛いし、引っ付き虫のように動物に引っ付くわけでもない。種を広範囲にまき散らす目的ならこれでは達成しないかも。そういや私が子供の頃は、この実を拾い集めて投げ合って遊んだものです。これが当たると痛いんですよね。それがノグルミの作戦なのかも。最近ではドライフラワーなどに需要があり、リースやスワッグ作りのおしゃれな材料として愛好家には人気ようです。



このタイガースカラーはその名もトラツグミ。大きさはヒヨドリくらいで、大阪のおばちゃまをイメージするド派手ないでたちが目を引きます。それにもまして有名なのが、トラダンスと呼ばれる愛らしい動きです。頭は動かさず体と尾っぽを軽やかに上下・左右に揺らす姿はひょうきんで思わず笑ってしまいます。「トラツグミのダンス」でぜひ検索してみてください。癒されますよ。

環境爺(びびい)のつぶやきコラム



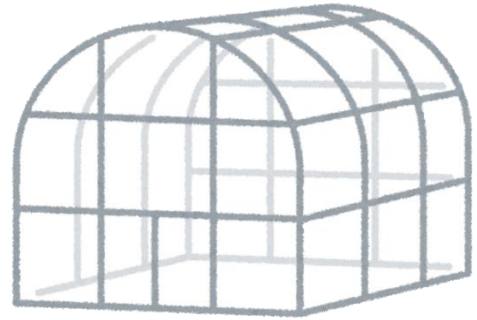
ぶつぶつ

今年は昨年と違って雪がドカドカ降っておるのう。冬山シーズン到来じゃ。わしゃもう、スノボじゃバランス感覚に難ありじゃが、スキーならまだまだやれるぞ。何しろ、杖(ストック)を両手に滑るのじゃから、ある意味ジジイにピッタリじゃ。というわけで、去年は雪遊びが出来なかったのう、今年こそはと意気揚々、雪山へ繰り出した。ところがじゃ！驚いた。膝がポキポキと音を出すのじゃ。スキーってターンする時、中腰で膝に力を入れるじゃろう。そうすると、面白いほどに膝が鳴るんじゃ。右へ左へとターンするたびポキポキポキッ、ポキポキポキッ、膝の音楽隊じゃ。そう言えば子供の頃、姉が遊んでいたバービー人形の膝や腕を曲げた時の音を思い出した。特に痛い訳じゃないがこれって膝が壊れとるわなあ。あちゃー！じゃ。得意なスキーが出来んようになるのも、もはや時間の問題か。それすら許されんとはのう。何とも情けない話じゃよ。いや、人工関節を入れてでもスキーだけは続けたいぞ。



今回は、Scope 3 (スコープスリー) について話そう。このところ、ビジネスにおいて、顧客から「GHGのサプライチェーン排出量を教えてもらえますか？」と要求されることが多くなった。とくに一流と言われる大企業からの問い合わせが増えておると聞く。初めて聞く者は、これはなんじゃ？と思うじゃろう。これはな、要するに企業活動をするうえで排出した温暖化ガスの総量のことなんじゃ。GHGは(Green House G

us) の略、つまり温室効果ガスのことじゃ。そしてよく耳にしておるであろうサプライチェーンとは、Supply (足りないものを補給する) Chain (連鎖) ということ、生産者から消費者へ至る供給販売網全体のことを指しておる。冒頭の言葉を翻訳するとじゃな「温室効果ガスの排出量を一切適切計算して教えてください」ということになる。



なんで、こんなことを言い始めたかというじゃな、一流企業が年に一度公表するCSR報告書や統合報告書において、GHG総排出量を記載することが今、ひとつのブームになっておるからじゃろう。いろんな筋からの要求はむろんあるじゃろうが、その目的は企業価値の向上と宣伝効果じゃ。

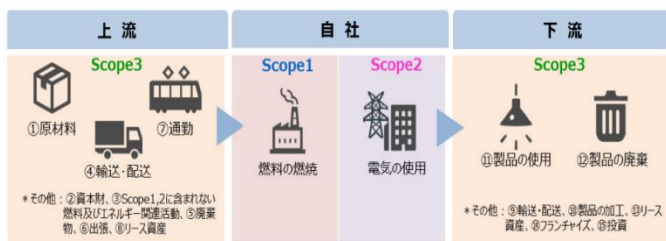
「うちの会社はこんなにGHG排出量を抑制させる活動をしている素晴らしい会社ですよ～」と印象付けたいのじゃ。しかも、開示が法制化されるかもしれんと来たもんじゃ。

実は、このGHGサプライチェーン排出量の算出というのが大変なのじゃ。一昔前のGHGの排出量というのは、自社の分だけを計算すればよかったんじゃ。虹技でも毎年計算して市やら県やら経産省にも報告しておるのがそれじゃ。例年この紙面でも報告しておるじゃろう。ところが、このサプライチェーン排出量というのはじゃな、自分のところの排出量にとどまらず、虹技ならば購入した原材料の製造・運搬や、従業員の通勤時に排出するGHG量に加え、販売した製品の流通時や使用・廃棄で排出するであろうすべてのGHG量まで網羅せねばならんのじゃ。



この計算こそが尋常でなく面倒くさいのがScope 3じゃ。誰がそんなことを始めたのかじゃと？ 世界の名だたる企業で構成される環境研究機関や、国連が協賛する公的環境研究機関などによって決められたようじゃが、どうもよくわからん。

とにかくじゃな、それらによって決められたGHG排出算定方法を、GHGプロトコルイニシアチブ（GHGプロトコル）と呼ぶのじゃ。（プロトコル：規則や規定・手順のこと。イニシアチブ：主導権や率先という意味。）この方式で計算しなさいということじゃ。



○の数字はScope 3のカテゴリ

Scope 1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope 3: Scope 1、Scope 2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

出典: 環境省ホームページより

このGHGプロトコルにはScope 1～3まであり、1は、自分のところで直接出すGHGの計算。虹技で言えば熱処理炉とかキュボラから出るGHGじゃ。2は、自社では出さんが電力会社で間接的に出している量。虹技で言うなら使った電気を作る際に電力会社から出たGHG量のこと、実はこれが一番多いのじゃ。この1と2については、虹技でも従来から公的に提出を義務付けられており、毎年計算しておいて特に問題ないが、問題はScope 3じゃ。要するに、川上と呼ばれる原材料の製造運搬や従業員の通勤等に際して排出されるGHG量と、川下と呼ばれる完成品の流通・使用・廃棄に際して排出されるGHG量を計算しなきゃならん。どうじゃ？ 考えただけでもややこし過ぎるじゃろう？

とにかく、一個一個おしなべて算出し、合算するのは不可能に近いので、ある一定ルールでの簡易算法などがある。ただ、これがまた煩雑で、とてもじゃないが素人の手には負えんのじゃ。そこで、Scope 3公開が法制化されそうだというの

で、まるで雨後のタケノコの如く、GHGプロトコルのコンサル業がよきよきと出て来ておるようじゃ。

そもそも、何でもこまでややこしいルールが必要かというじゃな。企業が自ら出すGHGの削減には、もう行き詰っておるからなんじゃ。特に日本ではGHG排出抑制が進んでおるし、自助努力による削減量はもうそこそこやっておるんじゃ。そんなGHG削減促進のカンフル剤として、企業間でけん制し合うあらわさを導入しようという訳じゃ。

例えば大企業が、サプライチェーン全体にGHG削減を取引条件とするいわゆる、権力政治的なものを想像すれば分かり易いかもしれんな。GHG削減ができない企業をあぶり出すような制度じゃ。まるで魔女狩りのようなやり方でGHG削減ができない企業をはじき出して、排除する。環境省のホームページにそんな説明が当然あるはずないが、早い話がそういうことになっておる。そんな制度を導入せにゃならんほど、世界のGHGの排出削減は進んでおらんということが分かる。制度の是非はあろうが、この波に乗らねば企業の持続が難しくなる日が来るかもな。虹技の社員もそろそろ勉強するところから始める必要があるのう。



ところで、先日、老人大学の学芸会があった。わがクラスは合唱で参加した。決して上手いとは言えんが、練習の成果を大ホールのステージで見事に発揮し、拍手喝采じゃった。クラス委員長のわしは指揮とMCを担当し、程よく受けて楽しめた。クラスメイトのご婦人方も大満足で笑顔満開。学芸会終了後にはジジイ仲間居酒屋になだれ込んで大騒ぎ。いくつになっても人生は楽しめるのじゃと、皆でたたえ合ってお開きに。じゃが、ちと飲みすぎた。ジジイとはしご酒の二日酔いはちょっと不覚じゃった。女性たちとなら、どんなはしご酒でも嬉しいのになあ

ぶつぶつ

虹の森なう

今回は、活動の前日に大雪の恐れありとの天気予報だった為、活動は中止としました。結局は、それほど大雪ってこともなかったのですが、それでもゆめさきの森公園はこのように真っ白な雪化粧。



1月の活動時に、活動拠点の東屋の床がパキパキに凍てつき、つるつる滑って危なかったことを考えれば、これくらいの雪でも森林整備活動はちょっと大変だったと想像できます。ま、安全第一での中止は賢明だったでしょう。雑木伐採はただでさえ滑りやすい斜面が多く、雪なんか積もっていたらコロコロ転がって雪ダルマになるしかありませんもの。



この冬は、昔みたいに寒い日が多いですね。温暖化が取りざたされるようになってからは、暖冬に慣れてしまっていたような気がします。極寒で雪が降ったりするのは困ることも多いので大変ですが、やっぱり冬は寒い方が良いですね。だって、冬は毎年来るかか乱とも言えるでしょう。動植物にとってはそれまでの繁栄がいったんリセットされ、すべてがスタートラインに戻される季節。そうして十分にエネルギーを蓄えて、よーいドンで、春を迎える。



春になったら、動物も植物もスタートダッシュで我先にと成長・繁殖する。毎年いつもの、この競争が生物多様性を実現させていると思っています。四季ある日本は、どこに行っても緑豊かで潤沢な自然がある。世界をグーグルアースで見たら、地球の大半の大地は砂漠か荒野で黄土色。東南アジアやアフリカ、南米の一部に緑があるものの、四季のない緑地は死の森になっているところが多い。だから里山は貴重なのですよね。

第104回 森林整備の案内と参加者募集

さて次回は、春の兆しが森に現れているはずです。暖かかったら、シイタケの収穫ができるかも。そして、ホダ木にシイタケ菌を打ち込む作業もしなくっちゃね。とりあえず、シイタケ菌打ちの後に、虹の森で雑木伐採の続きです。春になって虫たちやヒルさんたちが出てくる前に、できるだけ伐っておきたいところです。初めての方大歓迎です。よろしくね。

日時： 3月8日（土） 10：00～15：00（9：30公園駐車場集合）

場所： 県立ゆめさきの森公園（虹の森）

申し込み： 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。

的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。